

翌日、プログラム本番、フットパスへの参加。今回は23あるコースの内、15番目の二俣橋コース、約5キロある道を2時間ほどかけて歩きます。途中、ボランティアの人たちが作ったおやつを楽しみ、お茶を飲んだりの軽トラカフェ。歩いた佐俣には、古い石橋がたくさんあり、景観を楽しめました。ただ残念な事に地震の影響で壊れている箇所が多く、復旧には膨大な費用と日数が掛かるのではないかと地震の恐ろしさを見せ付けられました。歩き終わった後、フットパス弁当なる物を昼食として戴き、バス移動で美里町役場へ行き



ました。役場の一室で、フットパスの意味、コース作り、楽しみ方と講義を受け、一緒に歩いた仲間達と意見交換会、時間が少なく十分に発言できぬまま、全体交流会の行われる山鹿へと移動。バスの中でも会話は続きました。

山鹿での交流会会場も、古き酒蔵を利用した場所で歴史の古さを感じました。私は初めての参加で知り合いもなく、なるべく自分からの声掛けで、いろいろな人々との会話を楽しみました。食事酒もふんだんに用意され、皆さん大いに盛り上がっていました。また、夜の為、会場も竹や傘を使い上手にライトアップ、見事な演出をしていました。十分に堪能し宿に帰り温泉に入り熟睡できました。



最終日は、朝から全体会、八千代座という、1910年に建設された国の重文、芝居小屋。各分科会の成果発表と共に、来年度開催の香川県からの声掛けがあり、大いに盛り上がりました。引継ぎ式と募金をして全体会の幕を下ろしました。

群馬県でも大会をしたそうですが、その時は地域づくりに関わっていませんでしたので、どんな状況でしていたのかわかりませんが、群馬でまた開催されたなら、どんな事が出来るだろうかと思いを馳せました。

天候に恵まれた熊本大会、地域に帰り上手く活かせる様に試行錯誤しながら、これから先の自分の住んでいる地域のことを考える、今日この頃です。



## ■ 第5分科会 菊池ブロック

# 学校が楽校に！ 廃校が地域の宝に！



群馬県地域づくり協議会事務局 竹中学



交流会。菊池市、合志市、大津市、菊陽町の地域づくり団体の方々や行政職員から熱烈な歓迎、おもてなしを受けるとともに、水源村加工部の「水源ばあば」の手料理を味わいながら、全国から集まった団体の方々と地域づくりへの思いや地元の自慢話を語り合い、楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は「きくちふるさと水源交流館」の活用事例紹介からスタートしました。廃校後すぐに発足された跡地利用促進協議会は、地元地区の区長や代表者で組織され、行政主導ではなかったとのことでした。この話を伺い、水源地区の方がいかに地元地域のことを考え、廃校活用にむけて積極的に行動していたのかを窺い知ることができました。交流館がオープンした後も各種事業に多くの地元住民が参加しており、この施設が地域にとってなくてはならない存在になっているのだと感じました。

事例紹介後、会場を屋外に移動し、地域を知るための「フットパス」を体験。施設周辺は



私の参加した第5分科会菊池ブロックは、廃校施設の利活用について学ぶ分科会でした。

肥後大津駅に到着し、会場までのバス移動中、外の景色を眺めていると4月に発生した熊本地震の影響と思われる被害が数多く残されていました。地震からすでに半年近くが経過していますが、復興には多くの時間が必要だということを改めて感じました。事務局の方の話では、今回会場とはなっていない廃校施設の敷地を瓦礫置き場として開放したところがあり、そこは数日で瓦礫の山と化してしまったとのことでした。

会場へ到着後、まず施設案内をしていただきました。本分科会の会場兼宿泊地である「きくちふるさと水源交流館」は、平成12年3月末をもって閉校となった菊池東中学校の校舎を利活用しています。昭和22年竣工のため、多少古さを感じる場所もありましたが、歴史と趣に溢れたすばらしい施設でした。

見学後は、食堂（音楽室を改修）での夕食